

# 21 世紀 COE プログラム事後評価結果

文部科学省が世界のトップレベルの研究教育拠点の形成を支援するために行っている 21 世紀 COE プログラム事業について、この度、日本学術振興会より、平成 15 年度採択拠点の事後評価が公表されました。本学の「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は、「設定された目的は十分に達成された」と評価されました。これは、事後評価において最も高い評価であり、25 の学際・複合・新領域拠点のうち、このような評価をうけたのは本拠点を含めて 6 拠点でした。

## 21 世紀 COE プログラム委員会における事後評価結果

### 総括評価

設定された目的は十分達成された

### コメント

拠点形成計画全体については、日本常民文化研究所の長年の蓄積を生かしつつ、非文字資料の資料活用に関する理論的研究及び実践的手法を発展させ、国際的に利用しうる非文字資料のデータベース化が実現されており、設定された目的は十分に達成されたと評価できる。特に大学全体として、多様かつ強力な支援を行ってきたことは高く評価できる。

人材育成面では、人材育成の体制が必ずしも十分でなかった本分野において、博士課程在学者だけでなく、幅広い次世代研究者に呼び掛け、研究水準の向上と国際化に努め、学位取得者数の上昇傾向に見られるような具体的成果をあげており、大きな進捗が見受けられ、評価できる。

研究活動面については、非文字資料、特に絵引や身体技法の分析手法の深化とデータベース化に成果をあげており、本分野の国内外の研究者の知的基盤を拡大することができたことは高く評価できる。

補助事業終了後の持続的展開については、拠点形成期に蓄積された非文字資料に関する研究蓄積に加えて、「非文字資料研究センター」の設置など大学全体としての組織的支援強化が明確にされており、本分野の国際的研究教育拠点としての展開が可能である。特に非文字資料の多様な体系化方法やアーキビストの養成において、今後とも着実な発展を実現し、国際的拠点として確立することを期待する。

## 21 世紀 COE プログラム平成 15 年度採択拠点事後評価結果一覧

総括評価結果	医学系	数学、物理学、地球科学	機械、土木、建築、その他工学	社会科学	学際、複合、新領域	5 分野合計
設定された目的は十分達成された	19 <sup>件</sup>	15 <sup>件</sup>	9 <sup>件</sup>	11 <sup>件</sup>	6 <sup>件</sup>	60 <sup>件</sup>
設定された目的は概ね達成された	12	8	11	12	17	60
設定された目的はある程度達成された	4	0	2	2	2	10
設定された目的はあまり達成されなかった	0	0	0	0	0	0
計	35	23	22	25	25	130

※各拠点の事後評価結果の詳細については、日本学術振興会 21 世紀 COE プログラムホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-21coe/>) を参照